

資本コストや株価を意識した経営の実現

1. 資本コストと資本収益性の現状分析

①株主資本コスト

CAPMにより算出した株主資本コストは、概ね6%程度と想定。

②ROE（自己資本当期純利益率）

15.2%で株主資本コストを上回る水準。

2. 資本収益性向上に向けた取り組み及び資本配分の考え方

- (1) 当社は、運輸事業や遊園地、ホテル等、事業用固定資産の割合が高いため、収益性、資産効率の向上を図り、ROEを14%以上の水準で維持することを目指す。
- (2) 当社は、リブランディングにより設定した、4つの顧客体験価値の実現により生み出したキャッシュ・フローを、成長投資、財務健全化、株主還元適切に配分し、企業価値の最大化を図る。

<主要施策>

①収益性（売上高営業利益率）、資産効率（ROA）の向上に向けた取り組み

ア) 業績の向上、損益分岐点を意識したコスト管理及びDXを活用

- ・DXにより集約されたデータ活用によりリアルタイムでのコスト分析を進め、生産性を向上させる施策を実施する。

イ) 富士五湖エリアに集中する事業特性や天候リスク回避に向けた営業施策、施設作り

- ・箱根・熱海エリアや静岡東部エリアへのインバウンド需要の地域分散を図る。
- ・標高の高さや涼しさを生かしたナイトタイムエコノミー需要の掘り起こしによる時間分散を図る。
- ・季節に合わせた営業施策の充実により平準化を図る。

ウ) 遊休資産の有効活用

- ・遊休資産を効果的に活用し、資産効率の向上を図る。

②適切な資本配分による企業価値の最大化

ア) 成長事業、持続可能な施設づくりへの積極投資

- ・遊園地事業、ホテル事業への投資を強化し、事業の成長を促進する。
- ・鉄道・バス事業への投資を進め、インフラ、二次交通の整備充実を図る。
- ・デジタルプラットフォームとデジタルマーケティング強化に向けたDXへの積極的な投資。

イ) 財務健全化

- ・事業の貢献度が低い資産の売却や現預金残高の適正化により、有利子負債の圧縮を進める。

ウ) 株主還元

- ・適切な配当政策を通じて株主への利益還元を重視する。

<目標とする経営指標>

	中計目標値	23年度実績	24年度実績	25年度計画
営業収益	507億円	507.0億円	522.3億円	548.5億円
営業利益	67億円	81.5億円	83.1億円	87.5億円
売上高営業利益率	13.2%	16.1%	15.9%	16.0%
経常利益	63億円	79.4億円	81.3億円	84.5億円
親会社株主に帰属する当期純利益	38億円	45.7億円	51.1億円	53.0億円
ROA（総資産経常利益率）	6.5%	7.9%	8.1%	8.3%
ROE（自己資本当期純利益率）	—	16.0%	15.2%	14.1%
PBR（株価純資産倍率）	—	6.7倍	3.3倍	—
株 価	—	3,950円	2,246円	—
一株あたり純資産	—	590.2円	672.1円	—
ROIC（投下資本利益率）	—	6.6%	6.7%	7.1%
WACC（加重平均資本コスト）	—	3.8%	4.3%	4.5%
有利子負債（借入金+社債+リース債務等）	487億円	535.0億円	493.8億円	452.5億円
現金預金	—	179.1億円	167.8億円	131.3億円
ネット有利子負債（有利子負債-現金預金）	—	355.9億円	326.0億円	321.2億円
一株あたり配当金	—	26.0円	29.0円	30.0円

※中計目標値・中期経営計画の目標とする経営指標（2023～2025年度の3ヶ年平均）

有利子負債は中計最終年度残高

<株主資本コストの考え方>

CAPMにより株主資本コストを算出

①リスクフリー レート 1.40%	+	②ベータ(β) 感応度 0.72	×	③市場リスク プレミアム 6%	=	株主資本コスト 6%程度
-------------------------	---	------------------------	---	-----------------------	---	-----------------

※前年の株主資本コスト:5%程度・・・①リスクフリーレート前年比+0.68pt、②β値前年比+0.04

①リスクフリーレート:10年国債利回り ②ベータ(β):直近10年の当社株式とTOPIXの変動率の感応度

③市場リスクプレミアム:過去の株式市場利回り-リスクフリーレート